

めざせ世界遺産登録 あなたも参加団体で活動しませんか？

鎌倉に伝承する文化を保存

鎌倉市郷土芸能保存協会

鎌倉では、市内の各地域に様々な郷土芸能が伝承されています。鎌倉市郷土芸能保存協会は、昭和45年に発足し、現在22の団体が加盟し、郷土芸能の伝承に取り組んでいます。



津餅搗唄保存会（つもちつきうたほぞんかい）

郷土芸能は、人々の生活の中で生まれ、伝えられ、地域で息づいています。

当協会は、この鎌倉で「生きた文化」とも言える郷土芸能を永く後世に伝えることを責務と考え、様々な活動をしています。毎年「鎌倉郷土芸能大会」を開催し、各地域の特色ある祭ばやしや、神楽・唄などを上演しています。

事務局の松本さんは、「鎌倉の歴史遺産を後世に伝えていくことを目的としている世界遺産登録と、鎌倉の郷土芸能を後世に向けて保存していくことを目的としている当協会は、目的を同じにしています。今年も秋に『鎌倉郷土芸能大会』を開催する予定です。子どもから大人までが出演し、様々な郷土芸能や祭ばやしを披露しますので、ぜひお越しいただき、鎌倉に伝承されている郷土芸能や祭ばやしをご覧ください」と話していました。

お問い合わせは事務局（教育委員会文化財課内）
（☎0467-61-3857）まで。

古都鎌倉の世界遺産登録って

なに？

第27回 史跡整備の現状

史跡整備は歴史的な遺産を永久に保存するとともに、その姿を目に見えるかたちで復元し、公開・活用に資することを目的にした事業です。

史跡整備は史跡指定後に保存管理計画の策定、指定地の公有地化等を経て実施されることが一般的です。

鎌倉市では市内にある三一件の国指定史跡のうち、二階堂にある永福寺跡の整備を進めています。

永福寺跡は昭和四一年六月一日付で史跡に指定され、翌年から土地の公有地化を進め、整備のための発掘調査が実施されました。

発掘調査の結果、源頼朝が建立した永福寺の壮大な伽藍の遺構が明らかになりました。

発掘調査の成果に基づき、史跡の保存整備計画を策定し、二階堂、阿弥陀堂、薬師堂といった三堂の基壇や苑池をはじめとする庭園の整備を順次、進めています。現在は、園路が整備されている平場の部分を開放しています。

整備事業が順調に進むと、平成二八年の春には史跡整備がほぼ完了し、市民の皆様には『史跡永福寺跡』として公開できる予定です。

鎌倉の世界遺産の礎を築く

一般社団法人 鎌倉同人会

鎌倉同会は、1915年（大正4）に鎌倉最古の社会貢献団体として、外交官の陸奥広吉（父は陸奥宗光）や洋画家の黒田清輝が各界で活躍している人々が設立し、住みやすい鎌倉のまちづくりを進めました。鎌倉駅の改築、若宮大路の整備、寺社・史跡の保存、郵便局の建設、鎌倉国宝館の建設、関東大震災の復興支援など、行政が十分出来ないことも行い、今日の鎌倉の基礎を作りました。その際の活動は、現在の世界遺産候補の寺社・史跡等の復興・整備にも大きく貢献しています。

現在でも実朝忌の俳句大会、実朝公顕彰の歌会、栄西まつり、文化講座・歴史講座、映画会など鎌倉の文化発展に寄与する多彩な活動を続けています。

また、世界遺産につながる平和都市宣言や古都保存法成立の活動を行うとともに、鎌倉をはじめ、奈良・京都や全国の主要な文化財を空襲から守ったウォーナー博士の顕彰碑を建て、法要を続けています。

山内静夫理事長は「今後も鎌倉の文化を世界に発信したい」と語っていました。



ウォーナー博士の顕彰碑前で法要
（鎌倉駅西口・時計塔小公園にて）